

NCS

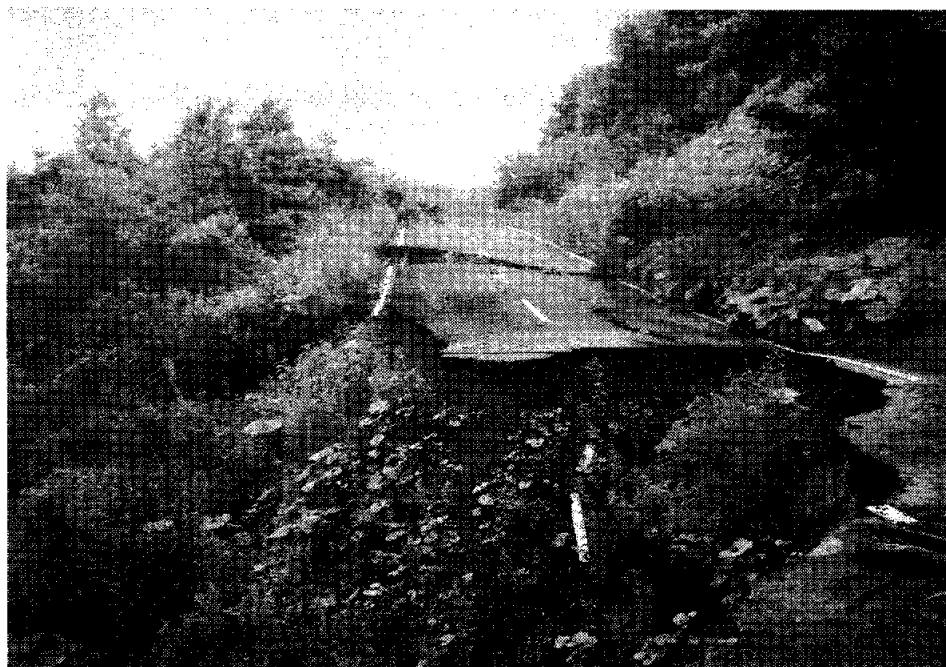
Nature Conservation
Society of Hokkaido

HOKKAIDO

2005年7月 NO.126

..... CONTENTS

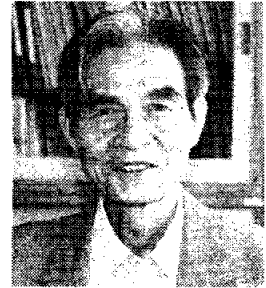
チヨットひとこと..... 俵 浩三..... 2	北海道各地のニュース
未来の子どもたちにサンル川と サクラマスを残そう..... 小野 有五..... 3	岡井 健・雪子 F.Grasing・大館和広..... 8
2005年度通常総会の概要..... 4	あ・ら・か・る・と..... 10
第13回大規模林道問題全国 ネットワークの集い..... 越野 藤子..... 6	活動日誌・要望書など..... 11
	お知らせコーナー..... 12



2003年台風10号で全面決壊した大規模林道「平取・新冠区間」現在もそのままの状態
2005. 6. 26 (撮影 大久保フヨ)

大規模林道の「費用対効果」の謎

いま北海道内では緑資源機構（旧森林開発公団）により、3本の緑資源幹線道路（旧大規模林道）が、山奥の自然を破壊しながら建設されています。これは高度経済成長時代、苫小牧東部大規模工業基地開発と時を同じくして計画された大規模林業圏開発計画の中核で、その後の時代の変化により林業情勢は激変し、事業の目的・必要性・効果の根本が破綻したのに、しぶとく生き残っている公共事業です。総事業費は1千億円以上、1979年の着工以来25年を経過しましたが、まだ半分もできていません。



そのうち①平取・えりも線の平取区間、②平取・えりも線の様似区間、③置戸・阿寒線の置戸・陸別の3区間については、「大規模林道事業のあり方検討委員会」による事業再評価が行われた結果、昨年、①は取り止め、②③は一部計画変更して事業継続との結論が出されました。私はそれにとまなう「費用対効果分析の試算結果」を見てみました。それは大規模林道の整備により、木材生産、環境保全、森林利用の促進、災害などの軽減、山村の環境整備などに役立つ要素を「便益」として金額換算し、その総計が事業費を上回るから公共事業として投資効果があるという結論にいたる重要な評価要素です。その方法は、林野庁が定めた「マニュアル」によって計算されていますが、外部の者には細部の算出根拠がわかりません。

そこで大枠を理解するため3区間の項目ごとの比率を出してみました。そうしたら3区間とも、木材生産が約30%、環境保全が約60%、森林利用の促進などが約10%と、奇妙に一致していることが判明しました。3区間は地形・地質、森林（人工林の割合）、付近の集落など、沿線の条件が大きく異なるのに、便益割合が同じになるのは偶然の一致とは考えられません。すなわち、これはあらかじめ事業費を上回る便益合計の枠を定め、木材生産に30%、環境保全に60%を割り振り、「数字合わせ」をした疑いが濃厚なのです。

だから②の様似区間は③の置戸・陸別区間に比べると、受益面積が狭く人工林割合も低いのに、地形急峻で事業費が高いため、事業費に比例して木材生産便益も大きくなっています。しかも様似区間の大半は道有林で、道有林は木材生産を目的とする森林施業は行わないと宣言しているのに、木材生産便益が大きいという矛盾を露呈させています。

このような「まやかし」で事業を継続して自然を傷つけ、しかも自然破壊という生態系に与えるマイナス便益は無視して平然としている公共事業は、即刻中止すべきです。

（理事、前会長・札幌市在住）

俵
たわら

浩
ひろ

三
み

未来の子どもたちにサンル川とサクラマスを残そう！

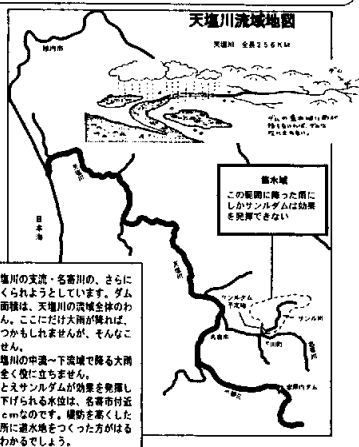
北大・大学院地球環境科学研究科教授・道自然保護協会専門委員 小野 有五

道北を北に流れる天塩川。その支流、名寄川のさらに支流に、北海道開発局はサンルダムを建設しようとしている。ダム建設には以前から強い批判があった。それにもかかわらず、すでにダムの取り付け道路の工事は着工されている。道協会ははじめ、道内の自然保護団体は、4月に初めて開かれた意見聴取会に、ダムの悪影響や、ムダを批判する意見を提出したが、たんに「ダムに賛成」というていどの意見が多くよせられたために、13人の意見陳述者のうち、反対意見はわずか3人しかとりあげられなかった。一人10分、質疑も一切なしという状況で、まともな議論ができるわけがない。しかし開発局は、これで一般の意見は聞いた、として、ダム建設を求める天塩川の整備計画原案を今月中にも流域委員会に提出しようとしている。流域委員会そのものが、開発局によって一方的に選ばれた委員だけで構成されており、委員長は、近年までサンルダムを推進する旭川開発建設部にいた人物である。このような委員構成で、公正で透明性のある審議ができるのであろうか。

意見陳述さえまともにできなかった私たちは、5月13日付けで、道内の13団体の連名で、開発局に意見書を、国土交通省には要望書を提出し、公正な議論ができる「検討の場」を設置するよう求めたが、回答は、なしのつぶてである。しかし、天塩川の河口部でシジミ漁に従事している漁民からは、河川環境を悪化させる上流域の工事に批判の声が上がり、北るもい漁協はサンルダムに反対声明を出している。

サンルダムのおかしさ、ムダ、自然環境への悪影響については、13団体の協力で、それらをわかりやすく説明したパンフレットを作成したので、それを参照していただきたい。千歳川放水路計画と同じく、

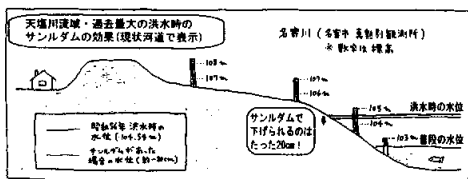
サンルダムの集水域は天塩川全流域のたった3%



昭和56年に起きた過去最大の洪水でも毎秒約3,800立方メートルの水しか出ていないのに、将来、どれだけの洪水が起きるかを想定する「基本高水流量」は、なんと毎秒6,400立方メートルと過大に設定され、それを防ぐためにサンルダムがある、と主張されているのである。しかし、いまでも堤防の未整備区間が多い天塩川本流で毎秒6,400立方メートルの洪水を防ごうとしたら、この先、何百年かかってもそれは無理であろう。そもそも昭和56年以来、大きな水害は起きておらず、起きているのは、内水氾濫がほとんどなのだ。遊水地を整備することで解決できるのである。支流の支流の最上流にサンルダムをつくっても、下げられる水位は最大でも20センチにすぎない。堤防の整備でじゅうぶんに防げる範囲である。

サンル川は道内で最大のサクラマスの産卵河川である。最長の、というべきかもしれない。河口から170キロメートル以上も川をさかのぼって天然のサクラマスが産卵できるのは、いまま天塩川だけである。この自然と生態系をそっくり未来の子どもたちに残すことが私たちの役目ではないだろうか。北海道遺産でもある天塩川の自然を壊してはならない。

(署名活動・カンパにご協力をお願いいたします)



サンルダムの流域図

2005年度通常総会の概要

日時 2005年5月14日(土)
午後1時30分～3時20分
場所 道民活動センター(かでの2・7)
710号会議室

(札幌市中央区北2西7)

会員総数965名(過半数483名)のうち、会場出席の会員は38名、委任状は506名、合計544名となり、定款上の定足数を満たしているため、総会が成立した。

1. 佐藤謙会長挨拶

土曜日の好天の日に、総会に多数ご参加いただき、ありがとうございます。最近、国有林や道有林が木材生産重視から生態系保護など公益的機能重視へ方向転換しつつあります。河川においても、治水・利水だけでなく、生物多様性保護など自然環境の保全が重視されつつあります。しかし、具体策となるとまだまだ不十分です。私たちは、種々の事業に単に反対しているわけではなく、是是非非で、それらが自然環境にどう影響するかを考え、会員の意思を集め、理事会での議論を経て行動しています。最近の不景気により、開発する側・事業者側に強引さが目立ってきました。いろいろな考え方の中で、自然保護運動としてどう取り組むのが良いのか、よく考えたいと思っています。そういう状況において、今日は、過去一年間のまとめ、これからの一年間の方針について、多くの知恵を皆さんから拝借したいと考えますので、どうぞよろしくお願いたします。

2. 第1号議案：2004年度事業報告ならびに収支決算報告・監査報告

- (1) 2004年度事業報告について、佐藤会長より議案書に基づき説明があった。
- (2) 2004年度収支決算報告について、奥谷常務理事より議案書に基づき説明があった。
- (3) 2004年度監査報告について、大西監事より、大西、山本両監事が監査した結果、会計処理、事業ともに適正に行われている

旨の報告があった。

- ◆第1号議案の承認について、議長より提案があり、会場の拍手をもって意義なく承認された。

3. 第2号議案：2005年度事業計画および収支予算

- (1) 2005年度事業計画について、佐藤会長より議案書に基づき提案があった。
- (2) 2005年度収支予算について、奥谷常務理事より議案書に基づき提案があった。

- ◆第2号議案の承認について、議長より提案があり、会場の拍手をもって意義なく承認された。

4. 第3号議案：その他の審議、意見交換

戸津議長より、具体的な議案が用意されていないので、会員の要望・意見を述べあう、ざっくばらんな意見交換の場とする提案があり、下記の意見交換がなされた。

- (1) 北見バイパス問題について

表会員(北見市、「北見の自然風土を考える」市

◇議案1：2004年度収支決算

決算報告(2004年4月1日から2005年3月31日まで)

一般会計

(円)

収入の部		支出の部	
勘定科目	04年度決算額	勘定科目	04年度決算額
(基本財産運用収入)	(0)	(管理費)	(3,485,930)
基本財産利息収入	0	賃金	1,200,000
(引当預金運用収入)	(0)	諸謝金	20,000
引当預金利息収入	0	退職金	0
(会費収入)	(4,924,000)	福利厚生費	0
個人会費収入	3,034,000	会議費	46,620
団体会費収入	1,890,000	旅費交通費	433,740
(一般事業収入)	(54,320)	通信運搬費	315,010
一般事業収入	54,320	消耗品費	200,259
(補助金収入)	(0)	燃料費	29,588
地方公共団体補助金収入	0	光熱水量費	102,388
(助成金収入)	(0)	賃借料	928,248
民間助成金収入	0	諸会費	83,000
(寄付金収入)	(265,055)	図書資料費	0
寄付金収入	265,055	支払手数料	6,910
(雑収入)	(171,541)	租税公課	27,000
受取利息	31	雑費	93,167
雑収入	171,510	(一般事業費)	(1,776,814)
(繰入金収入)	(0)	広報事業費	1,592,633
繰入金収入	0	普及事業費	151,199
(引当預金取崩収入)	(0)	印刷製本費	32,982
退職給与引当預金取崩収入	0	(調査研究等事業費)	(458,308)
(前期繰越収支差額)	(4,143,754)	(引当預金支払)	(0)
		退職給与引当預金支払	0
		(繰入金支出)	(0)
		繰入金支出	0
		(予備費)	(0)
		支出合計(B)	5,721,052
収入合計(A)	9,558,670	次期繰越収支差額	3,837,618
		(A)-(B)	

民連絡会) : この間の協会の協力に感謝し、ここに経過と問題点を報告します。北見バイパス予定地は、北見市の自然がまとも残されている場所です。昨年は、オジロワシの繁殖が確認され、今年も抱卵しています。該当地には、考古学的観点から見ても興味深い遺跡があります。工事費用は、延長10.5kmに対してトンネル・橋梁などが多数建設されるため400億円かかると説明されています。

私たち市民連絡会は平成15年9月から活動を行っています。今年1月の学習会(佐藤会長、市川副会長出席)には、154名が出席しました。当協会と連名で要望書を提出し、その後、網走開発建設部に回答と協議を求めてきました。

現在、署名活動に取り組んでおり、1万筆ほど集まっています。しかし、開発側・推進側は昨年3万余筆の署名を集約し北海道開発局に提出していますので、他方で、多角的に運動を進めていきたいので、絶大なご支援をお願いします。

佐藤会長: 11月初めに地元の「北見の自然と風土を考える」市民連絡会と連名で要望書を提出しました。それ以降、推進派が事前のアポイントメントなしで、協会事務所や私の勤務先にまで押しかけ、面会を求めてきました。これまでの保護運動と違う、反対意見を封じ込めようとする推進側の動きがあるので注意したい。この問題は、身近にあるけれども地元の貴重な財産である自然を壊して道路を造ろうとしておりますので、今後とも、皆さんの大きな協力をお願いしたい。

② 千歳川頭首工問題について

明野会員(千歳市、千歳の自然保護協会): 頭首工(とうしゅこう)は、水田に灌漑用水を供給するための水門と堰を組み合わせたもので、千歳川の上流域が予定地です。長沼町「南長沼土地改良区」が、コンクリートの耐用年数50年を理由に、河川構造令に基づいて現在ある河川構造物の全面改築を求めてきました。その改築は、大規模な自然破壊、環境破壊、景観破壊を伴います。これまで住民説明会と勉強会を合計6回持ちました。最近、河川管理者(石狩開建)が前面に出てきて、柔軟に対応するようになったが、煙に巻かれた感じがあります。今後もこの地域の自然環境保全について尽力したい。土木工学を専門とする高田直

俊大阪市立大名誉教授が7月に来道予定であるので、色々な立場の人が一同に介する機会を設け、現地を視察する予定である。

福地常務理事: 予定地の千歳川には、チトセバヤカモが真っ白に咲き、破壊されてしまう周辺の自然林には、これからの季節に咲くオオバナエンレイソウとシラオイエンレイソウの大群落がある。カツラやクロベイヤ(ミヤベイヤ)の大木もあり、支笏洞爺国立公園の入り口に当たる場所である。これらを傷つけるのはまことに残念なことであるので、7月の機会には多数の参加を願っています。

明野会員: (「なぜ南長沼土地改良区なのか?」という質問に対して) 水利権の関係からそのようになり、利水については行政区は関係ない。私たちは、頭から反対するのではなく、農業用利水施設なのだから、自然環境に配慮してほしいと願ってきた。改修計画では、今ある固定堰から200m上流に新たな可動堰を設置するため、先住民族の聖地である中州をつぶし、水の流れを変えてしまう。また河床をコンクリート化しなければならぬため、大規模な自然破壊となる。私たちが日

◇議案2: 2005年度収支予算

予算計画(2005年4月1日から2006年3月31日まで)

一般会計

(円)

収入の部		支出の部	
勘定科目	予算額	勘定科目	予算額
(基本財産運用収入)	(0)	(管理費)	(3,691,000)
基本財産利息	0	賃金	1,200,000
(引当預金運用収入)	(0)	諸謝金	100,000
引当預金利息	0	退職金	0
(会費収入)	(6,000,000)	福利厚生費	10,000
個人会費	3,600,000	会議費	50,000
団体会費	2,400,000	旅費交通費	500,000
(一般事業収入)	(200,000)	通信運搬費	400,000
一般事業	200,000	消耗品費	200,000
(補助金収入)	(0)	印刷製本費	20,000
地方公共団体補助金	0	燃料費	40,000
(助成金収入)	(0)	光熱水量費	100,000
民間助成金	0	賃借料	900,000
(寄付金収入)	(400,000)	諸会費	86,000
寄付金	400,000	図書資料費	20,000
(雑収入)	(400,000)	支払手数料	10,000
受取利息	3,500	租税公課	30,000
雑収入	396,500	雑費	25,000
(繰入金収入)	(0)	(一般事業費)	(2,300,000)
繰入金	0	広報事業費	2,000,000
(引当預金取崩収入)	(0)	普及事業費	300,000
退職給与引当預金取崩	0	(調査研究等事業費)	(500,000)
		(引当預金支払)	(0)
		退職給与引当預金支払	0
		(繰入金支出)	(0)
		繰入金支出	0
		(予備費)	(4,346,618)
当期収入合計	7,000,000		
前期繰越収支差額	3,837,618	当期支出合計	10,837,618
収入合計(A)	10,837,618		

本各地の堰を調べたところ、大規模な改修をしなくても堰をつくることのできた実例があるので、今後の話し合いに生かしていきたいと思っている。

市川副会長：私たちの主張は、端的に言えば、周りの河川や自然林に影響が及ばないように今ある固定堰を改修すればよい、それで十分間に合います。

佐藤会長：河川法では可動堰でなければ水害は防げないといっている。そこがおかしい。上流に、支笏湖があるために予定地に至る千歳川に水害はない。さらに、王子製紙による5つのダムもある。ここは、人里に近いが、河畔林、河川ともに自然が豊かなところであり、北見バイパスの建設予定地と同様で、多様な自然がセットになって残されています。

村木会員：北見バイパス予定地に近い中の島公園でも同じような可動堰がつくられ、可動堰を動かすと、濁流が短時間でオホーツク海まで出るので、河口に住む漁業を営んでいる常呂町の漁民は困っている。

俵理事：50年ほど前、支笏湖でレンジャーをしていた。支笏湖が天然のダムとなり、千歳川は絶対に洪水を起こさない川となっている。王子製紙がダムを5か所ほど使っているが、大変きれいな川である。二風谷では、アイヌの文化をダムのために壊したということから、裁判所が土地収容法違反という判決を出した。その頃、旧土人法からアイヌ文化振興法というものができ、河川法もそれまでの治水利水に加え、自然環境という考えが導入された。あの場所では50年ほど前にカワシンジュガイを使って真珠の養殖事業が行われていた。今もカワシンジュガイは生きている。これは、それくらい綺麗な川であり、また水位の上下変動が少ないということを示しています。川を歩けばすぐわかりますが、河畔林が川のすぐそばまで迫っているのは、川が安定している証拠です。

明野会員：市民の議論を経て、千歳市の第1種自然環境保全地区に指定されています。堰の右岸側は入っていません。

伊藤会員：そこにはアイヌの遺跡にかかる部分があるのか？

明野会員：アイヌにとって神聖な場所であり、遺跡ではない。

伊藤会員：チノミというサケを祭るところだと思う。千歳のウタリ協会にこの話を持ちこんだのか？

明野会員：千歳市ではウタリ協会千歳支部、千歳の自然保護協会、市民の飲み水を守る会、蘭越町内会の4つが声を上げている（声を上げた順）。ウタリ協会からは興味深い提案も出ています。

(3) 新幹線の情報収集

竹中理事：新幹線の計画路線は手稲の裾野から

札幌に入るらしい。あの場所は崖地で、ハヤブサなどが生息していることから情報を集めた方がよい。

(4) サンプルダム

江部事務局長：お手元にサンプル川を守る会による資料が配布されています。沙流川水系の二風谷・平取ダムと天塩川水系のサンプルダムにおける河川整備計画は、道内における二大国家プロジェクト計画です。4月にサンプルダムの意見公聴会が開催されたが、協会は選定から外され発言できなかった。協会は、道内の13団体と連名で、天塩川流域委員会・北海道開発局旭川開発建設部・国土交通省に宛てた要望書を提出した。天塩川流域委員会は6月中旬に結論を出すと言っており開発側は動きを強めているが、下流の漁業組合が反対にまわっている。協会としては、他のダム問題とともに重要な問題なので、長期対策について論議を深め、当面は、何らかのアクションをとらなければならない。今年の活動方針にも入っているのも、会員の皆様の協力をいただきながら取り組みたい。

稗田理事：サンプルダムに限らず、ダムは北海道の川を壊している。皆さんの周りの小さなダムでも、上流と下流を分断して土砂の浸食・堆積のバランスを崩している。ダムの下流は河床が低下し崩壊していく。サケやサクラマスが産卵する湧き水や伏流水があったところは、とくに崩壊しやす。河川管理者は、このような川底をコンクリート等で固める。したがって、産卵場所が破壊され、川から魚がいなくなる。大きなダムであればあるほど、その破壊の度合いが大きい。サンプル川は、サクラマスの産卵場になっているので、ダムによる影響は計り知れない。現実には、沙流川では二風谷ダムができたためサクラマスが失われた。このようなことから、ダムは環境保全上、絶対に造ってはいけない。私事ですが、この3月に「鮭はダムに殺された」というタイトルの本を岩波書店から出版しました。

市川副会長：長い時間、ありがとうございます。最後の方で、竹中さんから情報収集についての話がありました。また、今日の議事の中で、情報開示のために30万円かかった決算報告がありました。日本では、少し情報を取るだけでもお金がかかります。ですから、皆さんから多くの情報提供をお願いしたい。例えば、北海道における新幹線は今まで研究されていない新しい場所に造られるために全く情報がない場合が多い。それらの情報をまともに情報開示によって集めようとすると何百万円もかかります。皆さんからの情報をお待ちしています。以上で、2005年度の総会を終了します。



第13回大規模林道問題全国ネットワークの集い・in 北海道

“森の道路を考える”をテーマに2005年6月25日(土)～26日(日)の2日間開催された。初日はかでの2・7を会場に全国から120名の人々が集まりました。遠くは広島県からの参加がありました。記念講演「日本の森と21世紀の課題」佐藤謙一郎氏と市川守弘氏の基調講演がありました。

続いて、大規模林道全国ネットワーク事務局長の加藤彰紀氏の基調報告があり、特別報告として俵浩三氏「道有林・国有林と大規模林道」と佐藤 謙氏「植物中心にみた様似・えりも区間の自然」がありました。そのあと各地からの報告として、原 敬一氏（葉山の自然を守る会代表）より、「朝日・小国区間の中止の今後の課題」と金井塚務氏（広島フィールドミュージアム代表）より「細見谷の大規模林道と生物多様性」の報告があり第1日目は終わり、翌日は早朝より、既に完成して富川町に移管されたが03年台風10号で被災した「平取・新冠区間」を60名ではほぼ全区間を徒歩で現地視察しました。

越野 藤子

昨年この集いに参加し、大規模林道建設、その愚行を知りました。

次回の集いは北海道で行うとのことで、参加したいと思いました。ぜひ、その崩落の現場を見たい、現場に立ってみたいと考えたからです。

講演・報告会場で、まず、参加者が多いなと感じました。皆さん、私と同様な気持ちでおられたのではないのでしょうか。あの現場を見なくてはと。

各地からの報告を聞いて、大規模林道の弊害で様々な形で生態系がおかしくなっているということを実感しました。なんとかしなくては、と素人の私、ごく最近、大規模林道の問題に接した私ですらも感じました。しかし、何をもってこれを止めることができるのでしょうか。市民のネットワーク。パワーばかりでなく、異なった意見やノウハウ、専門知識をもったひとたちが多面的にこの問題に取り組むことによって、一つの方向から見えていたのでは見えなかったこと、何か解決の緒を見つけることができるのでは、そのように感じる事ができた集いでした。

崩落の現場では、不謹慎ですが「すごい！これは見甲斐がある。おもしろい。」と感じました。もう、これは現実のものとは思えない。道の途中に突然と現れる土砂。

は！目の前の道が忽然と消えた、崩落現場。アドベンチャー映画のようだ。自分の体がフワフワとするようでした。「自然」を破壊してしまった、というよりも「自然」にその愚行を嘲笑されていると感じて情けなくなりました。

この現場をみたということは私の中でも大きな変化を生みました。やはり、一人でも多くの市民にこの現場を見てもらいたいと思います。何も知らない、知らされていない市民に。

13年、その歴史に敬服します。おそらく幾多のご苦勞があったことでしょう。そのご苦勞によって会の有意な活動を継続することができた、その深さを思います。葉山の新野さんが「大規模林道がなかったら、私の人生はつまらないものだった」と言われた言葉がとても印象的だったのですが、このネットワークで知り合えた多くの方々、このネットワークを通じて派生的に知り合うことができた多くのグループには私は何よりも感謝を申し上げたいと思います。前回、爆弾のようなお酒を飲んで共倒れした仲間にも会え、楽しいお話、熱いお話に明日の活力をいただいたようでした。大規模林道がなければ行かなかった道、大規模林道がなければ会わなかつた人たち。ちょっと、複雑な思いでもあります。

北海道生まれのシーザリオがアメリカンオークスを制しました。優勝を育む豊かな大地。このすばらしい自然は誰のものでもない、ありのままにあるべき自然です。その自然を想い、また来年、皆さんにお会いできるときはもっと膨らみをもって何かを発信できるようにありたいと思います。

(神奈川県在住)

北海道遺産の指定は、自然保護とは無関係であった —— 岡井 健

(会 員)

昨年2004年、根室管内の野付半島と打瀬舟が北海道遺産に指定された。管内では、すでに根釧台地の格子状防風林がその指定を受けている。北海道遺産は、自然に限らず文化的なものや無形物、あるいは不特定の地域を指定して、それらの保護、存続や道民の意識の昂揚を喚起するものであるとされている。

野付半島と打瀬舟の指定に関する説明会が、現地の尾岱沼で開かれた。1975年ごろ、故三浦二郎先生(元北海道自然保護協会副会長)を中心にユネスコ基金の支援を受けた「野付半島の環境報告者の作成」に微力ながらかかわった者として、この説明会は見過ごすことができなかった。早速、聞きに行ってみた。

根室台地の針葉樹は、元々、春国岱など沿岸域の湿原や砂丘上にアカエゾマツが見られるだけで、内陸にはほとんど見られない。格子状防風林は、ほとんどカラマツ(唐松・落葉松)人工林からなり、炭鉦の坑木などの需要を見込んで植樹されたものである。カラマツは、信州長野からもたらされた、今という「国内外来種」である。長野など本州中部地方の標高2,000m以上の高地に生えているカラマツは、国内・道内の低地において夏に最も冷涼な環境となる根室台地でもスクスク育つため、次々と大量に植樹されていった。

カラマツ人工林の中には、鳥がほとんどいない。カラマツにつく虫が少ないため鳥も入ってこないようだ。下草もほとんど生えていない。カラマツの落葉は、微生物による分解が遅く葉の形をとどめた粗腐植のまま、地面を覆っているからであろう。夏のカラマツ人工林は、シーンと静まり返っており、ある種の不気味さを感じる。ただ、冬になると、カラマツ林でもシジュウカラ、ハシブトガラなどのカラの仲間が飛び交っている。カラマツ防風林は、地形の変化と無関係に直線的に植樹されている。防風林は、風当たりの強い凸地形の分水嶺を意識して植樹されるべきであり、凹地形の河川や湿原の周りには、自然な河畔林が維持しなければならないと思う。しかし、カラマツは、このような基本的考え方を全く意識せずに、直線的に造られてきた。この点で、カラマツ人工林は、自然破壊そのものであった。植樹は、どんな木でも植えさえすれば良いというわけではない。本来の地形や残された自然植生を考慮した植樹でなければならないと思う。ただ、格子状のカラマツ林は、確かに、秋の紅葉時期には美しい。最も遅れて紅葉するカラマツは、根室台地を黄金色に染めて人々の感動を呼び、地域の人々の心にしっかりと定着している。

今回、野付半島と打瀬舟の北海道遺産指定に関する説明のため、北海道遺産構想推進協議会会長であるT先生がこられた。1990年、別海町の名勝地であるバラサントウ周辺の湿原が、国土計画の開発の魔手にさらされ、私たちが「バラサンを守る会」を結成した頃、まだ名が知れていない「ラムサール会議」を普及させようとしていたT先生をお呼びして、講演していただいたことがあった。

今回の先生の講演後、質疑が許され、私は先生に次のような質問をした。「野付半島は、この200年ほどの間に沈下して極端に細くなった。この半世紀足らずの間に、かつて野付半島に砂を供給し続けてきた知床半島において、50基以上も建設された砂防ダムや漁港建設の影響はどうか。また、野付半島を守るために、浸食防止を目的とした堤防が建設されるならば、それ自体が自然を変える点で自然保護の上から大きな問題になる。自然保護と地域産業の利害が相反したときには、どうすべきか」。ところが、T先生の回答は、まったく意味不明であり、要するに自身に考えがないといわれたような気がする。

そこで、私は、「北海道遺産」の指定は自然保護を一つの目的に掲げているが、実際には保護を謳うだけで実質がなく、かえって現場を混乱させるものであると強く感じた。北海道遺産は、むしろ自然保護とまったく関係なく、人工物が風土に馴染むことがあっても良いかもしれないが、人工物の是非を意識しないまま認める点で、平然と行われる自然破壊を容認する立場と結びつきかねない。

現在、知床半島は世界遺産の指定を受けるカウントダウンに入っている。「世界遺産」には、国際的な厳しい保護基準があるのに、国内および地域の人々は、地域に観光商品として付加価値をつけることだけに浮かれている感じがする。その状況の中で、「北海道遺産」はそれを擬えたものであろうが、自然環境に対する評価と保護策は、極端に薄いものとなっている。「北海道遺産」の指定が、守るべき地域を観光商品として付加価値をつけるだけに行われるならば、北海道自然保護協会は、それに対して警鐘を鳴らすべきであろう。

(別海町在住)



北海道各地の

宗谷丘陵について

雪子 F. Grasing

(会 員)

前略 前々号の会報 (No.124)、表紙の写真と大館氏の投稿を読んで絶句しました。まさにそこは私たち夫婦が昨秋の北海道旅行で一番印象深かった場所だからです。いつか住みたいと思う北海道をこれまでに数回訪ねておりました。道南、道央、道東の色々な土地を訪ね、道北も利尻、礼文島や稚内は訪れたことがありました。

しかし今回の旅の大発見は宗谷丘陵だったのです。風蓮湖、2度目の知床探訪の後、オホーツクの村、網走、能取湖まで行ったところで西に進路を変え、層雲峠を経て旭川に返車する予定でしたが、天気と気分で能取から海岸線を北上することにして、結局宗谷岬まで行ってしまいました。宗谷岬が観光化されていることは予想できたので観光バスの大群も土産店の賑わいにも、がっかりすることはありませんでした。宗谷岬の歌? をがんがん流し続けるスピーカーは壊してしまいたい、という衝動を抑えて「まあ仕方ない、ここは日本の観光地なのだから」としばし海を眺め、すぐに車に戻りました。

稚内へ向かう途中、内陸に入る道路があったので地図上では行き止まりになっているけれど、様子を見てみようということで、国道の見過ごしそうな小さな道標から宗谷丘陵へ曲がりました。そしてびっくりしました。カリフォルニアの丘陵地帯を思い出させる馬あるいはクジラの背のような丘が続いていました。くねくねとした道をわくわくしながら進んで行きました。日本にこんなところがあったなんて。さらに行くといつものまにか森林の中を、しかも快適な道路を進んでいたのです。周りの森林は広葉樹も針葉樹も混在した、しかも大きな樹を含んだ美しい森を形作っていました。ここは何なのだろう? 自然保護林に指定されているのだろうか? こんな素晴らしいところが国定公園か何かで、保護されていて少しだけ歩ける道があったらいいなあ。アメリカの国定公園のことを思い出していました。

しかし、この新しそうな、滑らかな道路。一体誰が使うのだろうか? もちろん国土交通省の今までの慣習に従えば誰も使わなくても道路の存在理由はあるらしいが。

それともこれから開発するために道路を造っているのだろうか。心配。すると、何かの工事のトラックが前から走ってきた。むむむ。少なくともトラックが来たので道は続いているらしい。それから砂利道になり、しばらく行くと道は少々荒れ、狭くなり普通の林道になりました。まもなくゴルフ場の看板が見えたと記憶していますが、その後宗谷岬から稚内に続いている国道の途中に出ました。

ちょうど台風も迫っており、戻れませんでした。時間があつたらあの丘陵地帯はもう一度戻ってゆくり見たことでしょう。(事実、台風の影響を考え予定を一日繰り上げて大急ぎで戻り、翌日旭川で車を返し列車で札幌に向かったのですが、そうしていなかったら翌日は列車が運休していたので足留めされていたでしょう)

そんなわけで、知床にも勝るとも劣らないユニークな自然の美しさがあると思った場所こそが、ウィンドファーム計画で問題になっているのだとはかなりショックでした。以前の会報で記事を少し読んだ記憶がありましたが、もっと海の方だと思い込んでいましたし、宗谷丘陵の実態さえ知りませんでした。

今回の旅の思いがけないボーナスだと私たちが喜んでいて宗谷丘陵周辺の自然の美しさ。あの景色が壊されてしまうのでしょうか。「人工物のない自然の景色を日本で探すのは不可能」というのも大げさでなくなってしまうのでしょうか。ちょうど北海道自然保護協会ならあの地域のことをきくと御存じだろうし、何らかの保護策がとられているのではないかと、お問い合わせしようかとさえ考えていた矢先の会報の記事でした。ぜひこのまま残していきたい自然です。こちらでも何かできることがあればお知らせください。長くなってしまいましたがずっと気になっておりましたので。

(東京都高尾在住)

「ラムサール条約登録湿地」

大館 和広

(理事)

ラムサール条約は正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」という。日本では1990年に初めて釧路湿原が登録され、現在はクッチャロ湖、ウトナイ湖など道内6箇所を含む13箇所が登録されている。

環境省は今年11月に開催されるウガンダでの締結国会議で更に20箇所を登録するために、調整を急いでいるようだ。この中には道内6箇所(サロベツ原野、雨竜沼、トーフツ湖、阿寒湖、野付半島、風蓮湖)が含まれている。登録湿地が増えるということは、基本的には歓迎すべきことだと思う。特に私は、本来であれば(条約本来の意味を捉えたなら)日本で一番先に登録すべきであった風蓮湖が登録されるということに感慨深いものがある。そして、雨竜沼の登録は日本では山岳湿地として最初の登録湿地となる。

道外を見てみると「湿地」という一言ではくくれない様々な環境もあるようで、登録後の新たな可能性を感じさせてくれる。

しかし、問題がないわけでもない。登録地域に肝心の部分が入っていないなど、何のための登録かと考えさせられる地域もある。

更に今回申請を見送られた湿地も多い。大雪山国立公園内にある「沼の原湿原」「沼の平湿原」は保護の緊急性がないなどとされ見送られた(北海道新聞報道)。また、私の地元の「コムケ湖」は十分な登録基準を満たしていながら動きもなかった。十勝海岸の湖沼群も登録を考えてほしいところである。協会では少しずつでも情報を集め、環境省や地元に関わりかけるとしてこの問題に取り組んでいきたいと考えている。

(紋別市在住)

あ・ら・か・る・と

寄贈図書紹介(寄贈順)

「環境思想キーワード」 奥谷 浩一 さん

青木書店 尾関周二・亀山純正・武田一博 編著

「自然ガイド/勇払原野 ウトナイ湖・美々川」 北海道新聞出版局図書編集部より

北海道新聞社 川崎慎二・大畑孝二 著

「鮭はダムに殺された」 稗田 一俊 さん

岩波書店 稗田一俊 著

「原野の鷺鷹」北海道サロベツに舞う 白木 彩子 さん

北海道新聞社 富士元寿彦 著

札幌学院大学社会連携センター・市民講座のお知らせ

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| (1) 「秋の自然を観察しよう」 午前10時～12時 | (2) 「北の動物たちを保護する」 午後6時半～8時半 |
| 10月15日(土)「森林総研内を歩こう」 | 10月21日(金)「ウミガラス保護の現状と課題(仮)」 |
| ガイド 福地 郁子 | 講師 小野 浩治 |
| 10月22日(土)「西岡水源池を観察しよう」 | 10月29日(金)「ナキウサギと大規模林道(仮)」 |
| ガイド 村野 道子 | 講師 市川 利美 |
| 10月29日(土)「野幌森林公園で紅葉を楽しむ」 | 11月4日(金)「オオワシは今……」 |
| ガイド 菲沢 ちよ | 講師 斎藤 慶輔 |
| | 11月11日(金)「ゼニガタカザラシをまもる」 |
| | 講師 角本 千治 |

現地集合 全3回で受講料2,700円

全4回で受講料3,200円

問い合わせ・申込先は 札幌学院大学社会連携センター

札幌市中央区大通西6丁目(☎011-280-1581)

活動日誌

2005年3月

- 2日～30日 (毎週水曜) 自然保護学校
 19日 第4回理事会
 29日 会誌No.43&会報No.125 発行

2005年4月

- 14日 第9回拡大常務理事会
 18日～19日 天塩川流域委員会意見聴取会
 傍聴(名寄)・翌日現地視察
 26日 矢白別演習場・別寒辺牛川水系土砂
 流出対策等検討委員会傍聴

2005年5月

- 14日 2005年度通常総会
 18日 ラリー問題での記者会見
 27日～28日 天塩川流域委員会傍聴(士別)

2005年6月

- 6日 「2005夏休み自然観察記録コンクール」開催にあたり、共催の北海道新聞野生生物基金と打ち合わせ
 11日～12日 サンプルダム現地視察
 17日 総合学習で札幌北中学生24名来所
 十勝ラリー問題で、北海道ならびに環境省北海道西地区自然保護事務所に対し、関係4団体で交渉
 18日 「油汚染国際ワークショップ」参加
 「フォーラム：天塩川流域の環境を考える」参加
 25日～26日 第13回大規模林道問題全国ネットワークの集い
 28日 第6回平取ダム環境調査検討委員会傍聴

要望書など

- 2005年3月22日 円山の眺望景観を無視した不当な都市計画に関する質問書
 (札幌市：上田市長宛)
 セイヨウオオマルハナバチの特定外来生物への早期指定を求める要望書
 (環境大臣：小池百合子宛)
 ■2005年4月19日 ラリーの環境調査報告書等の資料提供と説明会開催についての再要請
 (ラリージャパン実行委員長宛)
 ■2005年5月18日 「ラリー北海道2005」および「ラリー・ジャパン2005」の環境問題についての要請
 (北海道知事・林野庁長官・環境大臣宛)
 「自然環境に配慮したラリー」に反したラリー運営に対する抗議声明
 (ラリージャパン実行委員会委員長宛)
 ■2005年6月17日 「ラリー北海道2005」および「ラリー・ジャパン2005」の環境問題についての再要請
 (北海道知事・十勝東部森林管理署長・十勝西部森林管理署東大雪支署長宛)
 ※上記ラリー関係は十勝自然保護協会等4団体連名で提出

寄付金

ありがとうございます。

三井住友スマイルハートクラブ	50,000
三井住友海上火災保険	50,000
道央市民生協	30,000

(以上は2005年3月末まで)

伊藤 真人	2,000
原 島 和子	16,000
田 岡 一穂	3,000
三 木 昇	2,000
竹 中 万紀子	3,300
樋 田 繁治郎	4,000
松 野 誠也	4,000

* お知らせコーナー *

第12回夏休み自然観察記録コンクールのご案内

北海道自然保護協会では、毎年「夏休み自然観察記録コンクール」を北海道新聞社、北海道新聞野生生物基金との共催により、北海道教育委員会の後援を得て実施しています。応募方法は下記のとおりです。

- 応募テーマ** 身の回りの自然をよく見て、作文や絵に詳しくかいてみよう。
- 応募資格** 道内在住の小学生
- 応募規定** 作文用紙は自由な規格。低学年は絵日記ふうなまとめ方でも良い。絵は画材、用紙、大きさ自由
応募票（題、住所、氏名、学校名、学年、電話番号）を付ける。
- 応募先** ☎060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル
(社)北海道自然保護協会 ☎011-251-5465
- 応募期間** 2005年8月8日(月)から9月15日(木)必着(郵送・持参)
- 主催** (社)北海道自然保護協会、北海道新聞社、(財)北海道新聞野生生物基金

新 会 員 紹 介

2004年12月～2005年4月末

【A会員】

難波 徹基、齊藤 紀、嶋田美智子、
川崎 克、奈良 義明、村木美保子、
佐藤 毅、山本 節男、村上 真美、
川尻ひろし、仮屋 志郎、織田 清治、
嵩 文彦、池田理恵子、吉木 俊司、
石澤 成彦、表 誠司

【B会員】

嵩 禧子、五十嵐憲子、石澤 雅子、
明野 幸久

【学生会員】

小野 翼、大吉 恵碧、白木 彩子

協会のホームページ

<http://www.jade.dti.ne.jp/~nchokkai/>

協会では、会誌やNC(会報)の他に、ホームページでの活動報告・意見募集も行ってまいりますので、ぜひご覧になってください。会員の皆さんには、協会宛に直接の手紙でご意見を寄せていただくことを願っております。

会費納入のお願い

会費納入については日頃ご協力をいただいておりますが、未納の方は至急納入下さいませようお願いいたします。

個人A会員	4,000円
個人B会員	2,000円
(A会員と同一世帯の会員)	
学生会員	2,000円
団体会員 1口	15,000円

〈納入口座〉

郵便振替口座 02710-7-4055
北洋銀行大通支店(普通) 0017259
北海道銀行本店(普通) 0101444
札幌銀行本店(普通) 418891

〈口座名〉

社団法人 北海道自然保護協会

※ この紙は再生紙を使用しています。

